

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
海沼 順一		50年前頃の話ですが、米坂線に乗って天元台スキー場へ何度か行った思い出があります。坂町駅発7時頃の汽車に乗り、米沢駅に降り、タクシーでスキー場まで行き、3、4時間滑り、帰りは乗り合いバスで米沢駅まで、汽車の待ち時間は駅前の焼き肉店で米沢牛のホルモン焼きで一杯飲むのが楽しみでした。米沢駅から、午後5時頃ほろ酔い気分で帰路の乗車、車窓からの荒川の渓谷、山々の雪景色は今でも脳裏に残っています。坂町駅着は午後7時頃だったと思います。8時前には家についていました。米坂線のおかげで天元台日帰りスキーを楽しむことが出来たこと感謝しています。
TOM	80代（80歳～89歳）	「米坂線は学習と交友の場」S31年4月米沢興譲館高校に入学し米坂線の通学が始まりました。小国から片道約2時間の車内は、私にとって大変貴重なものでした。予習復習の場として英語の辞書を引いたり数学の問題を解いたり、解らないところは友達に聞いたり教えたり、あっという間に時間が過ぎて米沢に到着です。また車内は、いろいろな学校の方との出会いと交友の場でもありました。今なお付き合いしている友人もいて、米坂線でのご縁と大変有難く思っています。米坂線は、若者の夢と希望を乗せて走り続けてきました。若者の未来のために、早期復旧を強く願っています。
まなみ	50代（50歳～59歳）	小学生の頃、祖父と一緒に米坂線のキューロク9600型蒸気機関車によく乗りました。蒸気機関車が大好きだった祖父は奥羽山脈を東西に貫く米坂線をこよなく愛していました。おいしい駅弁を食べながら祖父と二人でのんびりと旅ができ、とても幸せな時間を過ごしたことを覚えています。豪雨で被災し運休が続くJR米坂線の早期復旧を心から願っています。亡き祖父が愛した米坂線に再び列車が運行し、家族で乗車できることを楽しみにしています。
近藤 和枝	50代（50歳～59歳）	2011年三月の震災で山形新幹線がすべて運休となり、山形市から東京へ向かうには、米坂線経由の新潟周りで東京までのルートしかありませんでした。長男が高専を卒業したばかりで、一人で上京する為の手段でした。本人は不安でいっぱいだったはずですが、山形駅で見送った時には、私も不安でいっぱいでした。あの時、山形新幹線がすべて運休が続いていたあの時、米坂線があったからこそ、米坂線が走ってくれたからこそ、長男は無事状況でき就職先の千葉県のアパートまで向かうことができました。現在、米坂線が運休と知り長男も私どもも心を痛めております。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。その節は誠にありがとうございました。
長尾 浩	80代（80歳～89歳）	米坂線は80才の私にとって遠い昔の懐かしい思い出です。JRの運転士として乗務中に見た春夏秋冬の景色は最高でした。特に紅葉の時は乗客も多く徐行運転で素晴らしい景色を楽しんで貰いました。冬にも一杯やりながら雪見の人も居ました。ある大雪の日に羽前椿駅で列車が立ち往生し除雪車も間に合わずに近くの（がまの湯旅館）に乗客と共に一泊したときには（運転士さんも大変です）の声や、新潟大学の学生さんからは（良い宿に泊まれて食事や風呂も入れて嬉しいし、良い経験になりました）と感謝されました。旅人にも沿線住民にも無くてはならない大切な路線です。米坂線の早期復旧を切に祈ります。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
アズキアイス	60代 (60歳～69歳)	平成16年に国家試験を受けるため新潟県のJR坂町駅から東京へ行った。東京駅に着き暫くして新潟県中越地震が発生した。翌日試験を終え東京駅へ行くと上越新幹線及び在来線の新潟方面行は足止めされていた。既に夕方だったのでもう一泊し、陸路がダメならと羽田空港に問い合わせたけれど新潟行きは臨時便も全て満席だった。何とか帰る方法はないか調べると山形新幹線で米沢駅へ行き米坂線に乗り換え坂町駅へ行けると分かった。不安で一杯だったけれど車窓から見える豊かな樹木や美しい渓谷は私を励ました。県境を越えたときに緊張の糸が解れて涙が溢れてきた。無事に新潟県に帰ることが出来て米坂線には感謝しかない。再び戻って来ることを願っています。
伊藤 キヨ子	70代 (70歳～79歳)	ワアー海だ!! 修学旅行で汽車の窓から初めての広い海。きっと忘れないでいる事でしょう。自分の子が幼い頃民宿に泊り海水浴が一番の楽しみでした。月日が流れ私は何度となく米坂線で1人日帰り旅をしました。車中から見える畑、そして小国になるとわらびのほだ、クルミの木、きのこ?と眺めている間に村上です。鮮魚センターで鮭をお世話になっている人に送ります。それから食事をし公園や海を散歩しぜいたくなひとときを過ごします。そのうちに友人たちにも連れて行つてと言われ何回も米坂線を利用し楽しみました。ゆったりと心があらわれ、元気をもらいます。元気なうちに泊りながら米坂線を楽しみたいなあと思っていましたが…。
乗り鉄の鉄子さん	70代 (70歳～79歳)	私が子供の頃、父が私と弟を連れて新潟県の真島に海を見に行きました。米沢駅から坂町駅までの駅名を覚えようと父が言ったので必死に覚えました。山に入りトンネルに入る前父は窓をしめ煙と石炭かすが入らないようにです。当時、父は蒸気機関車の機関士で米坂線と奥羽線を乗務でした。初めて見た海は広くて驚きました。20代になり、会社の同僚数人でねずか関に泳ぎに行き楽しくて時間のたつのも忘れ帰りは新庄経由で暗くなり電車がなく赤湯駅で夜をあかし親に心配をかけ更にシャワーを使うなんて知らず肩が塩分で痛くなった苦い思い出があります。中年になり友人6人で青春18キップを手に入れた村上駅下車観光し、お弁当を買いあつみ温泉駅で海を見ながら食べた味は格別でした。いつも113号線を通ると必ず父から聞いた何十年前の雪崩の大惨事を思い出します。全車両荒川に落ちた写真も見ました。もしあの時父が運転していたらと思うことがあります。一日も早く元通りになりますよう祈っています。
西城 町子	60代 (60歳～69歳)	東京でのながい生活を終え米沢に帰って来た。日中は気づかないが夜は遠くから列車の走行音がカタンカタンと聴こえてくる。夜の列車の音は切ない。早世した夫と30年前錦秋の頃に坂町から西米沢へ向かった。車窓に広がる赤芝峡や延々と続く田圃の景色に都会育ちの夫は興味津々。羽前小松辺りでは遠くに母の実家だった古家の跡が見えた。もう会えない祖父母や叔父の笑顔が蘇る。「命を終えた人間はどこに行くんだろう?」と呟く私に「どこかは判らないけど、またいつか会えるよ」と夫は微笑んでいた。黄金のススキが一面に広がる西駅に着いた時、西国もこんな風景だろうか?とふと思ったのはなぜだったのか。あどけない米坂線の話である。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ヒー	60代 (60歳～69歳)	<p>五年前の五月末、私はひとり米坂線の各駅停車に乗り仙台へ向かっていました。目的は東日本大震災で大きな被害を受けた友人に会うためでした。坂町駅から発車した電車はやがて山あいの荒川支流沿いを走っていきました。遅い田植えが終わった田は早苗が五月の風に揺れ新緑の中にタニウツギの花が所どころに咲き、心洗われる風景でした。そして線路沿いに点在する家々にはたしかに人の暮らしがありました。あの風景をもう一度見たいと思っていた矢先二年前の災害で米坂線は止まったままです。採算が合わないからと廃車になった路線は今までどのくらいあったでしょう。何もなくなった仙台の荒浜の海岸に立ってうしろをふり返った時人間が新しく作った町並みが広がっていました。</p>
はるき	20代 (20歳～29歳)	<p>私は、実家が東京都世田谷区に10年以上住んでいます。一昨年GW時に私は当時新潟県糸魚川市に仕事で住んでいて、その時思ったのがどうせGWだから新潟に遊びに行こうと。その時新潟駅でみた鉄道は快速便にばなです。ずいぶん変わった名称だと私は思いました。新潟から山形市に行くのは米坂線がなくてはならない存在だと思います。特に、大学の春休み、夏休みには最長片道切符で使用されているため。</p>
谷ゆずまる	80代 (80歳～89歳)	<p>39年前の4月中旬、「お父さん、定期券落とした…」西米沢駅から米坂線利用、長井高校へ通学する息子から悲痛な声の電話。小松駅付近で列車トイレを利用中、ズボンから定期券が便器へ落下。当時はトイレ垂れ流しのため、線路へ落下した。米沢駅から線路入り口の許可をもらい、小松駅から中郡駅へ歩いて探索。500m位歩いた線路脇の草むらで、息子の定期券を発見した。以来息子は、定期券入れに紐をつけ、ズボンに固定している。3年間お世話になった息子の列車通学、懐かしい思い出の一つとなっている。</p>
谷ゆずまる	80代 (80歳～89歳)	<p>私の息子は、昭和60年4月から3か年長井高校に在学。西米沢駅から米坂線利用の列車通学をした。高校英語教師のM先生に、大変お世話になった。同じ列車の隣席で、毎朝息子に話しかけていただいた。英語のお話、先生の体験談など楽しいひとときを過ごしたようだ。中学時代不得意だった英語は、高校卒業時クラスでトップになっていた。その後大学卒業後、英語を使う情報系の企業で活躍中です。息子を大きく飛躍させてくれたM先生、米坂線の列車通学に感謝している。ありがとう！米坂線！祈る早期復旧！</p>
谷ゆずまる	80代 (80歳～89歳)	<p>「お母さん、腹が減った。何か食べたい」37年前家族旅行で、帰るとき小4娘の叫びでした。午後7時過ぎ米沢着の予定で、帰宅後夕食を取るつもりでした。しかし、坂町駅で米沢行の列車が遅延した。隣の席にいた60代のおばさんが、「新潟駅で買った駅弁、半分食べていいよ」と言っていた。固辞したが食欲に負けていただいた。家族4人で一口ずついただいたが、とても涙が出るほどうれしかった。以後の家族旅行では、非常食（パンなど）飲物を持参することにした。夕方列車に乗るときは、必ず駅弁を買うことにした。米坂線の車内でいただいた駅弁の味と親切心は、終生忘れない。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
谷ゆずまる	80代（80歳～89歳）	『同席の見知らぬ人と話しつつ米坂線で心安らく』『純朴な優しき心の客ばかり米坂線の楽しい車内』この二首は、30年前西米沢駅から小国駅まで乗車中に詠んだ短歌です。車窓から見る沿線の風景は、四季いつでも美しいです。車内では、乗客の方々とお話しすることも楽しいです。米坂線には、楽しい思い出ばかりです。米坂線の早期復旧を強く心から願っています。
ぽっぽ	40代（40歳～49歳）	<p>高学年は2番電車。 低学年は1番電車。 この意味が分かる？ 朝の混雑する時間にギュウギュウになってしまうから、言わずもがな米坂線を利用する高校生には暗黙のルールだった。 なんだかほろ苦い青春の思い出である。</p> <p>夏休みには、坂町まで電車に乗って海に遊びに行ったり、花火大会では浴衣を着て米坂線に乗った。 ゴトンゴトン カタンカタンと遠くまで響くあの米坂線の音が好きだった。 今は 乗る側ではなく、車から遮断機の音を聞き、止まって電車を見送る。 遠くに走っていく電車を見送り 思い出すあの頃</p> <p>米坂線よ</p> <p>また遠くまで私たちを運んで行ってくれないか</p>
土畑かもめ	40代（40歳～49歳）	<p>J R米坂線の列車に揺られ、萩生駅から車で約5分の所にあるどんでん平ゆり園に旅の途中に訪れた事がある。折しも、6月の中旬、百合の花は最盛期を迎え、その色とりどりの百合の美しさに圧倒され、旅の最高の思い出となった。 あれから時が経ち、今、米坂線は存続・廃止協議の間を揺れている、とても大切な時期だ。しかし、私は思った。 地元に住む方、そして私のような観光客も含めて多くの人が存続を願っているのではないのかと。そう、いつかあの百合の花のように『存続という名の満開の花』を咲かせて、米坂線に人々の笑顔が戻って来る事を願ってやまないのである。</p>
米坂育ち	40代（40歳～49歳）	<p>今から30年ほど前の、中3の熱い夏でした。「海に行こう！」と、友達数人で米坂線に飛び乗りました。小国駅で長い待ち時間があることがわかり、「待つ位なら次の駅まで歩けるんじゃない？」と、無謀にも歩くことに。赤芝峡の遊歩道も通りました。結局、越後金丸まで歩きましたが、電車に追い越されてしまった私達は、タクシーで新潟の海に行きました。なげなしのお金を皆で出し合っで…。スタンドバイミーのような冒険でした。今も車で通る度に思い出します。車の移動では感じられない貴重な体験、そして、一生の思い出です。ありがとう、米坂線！</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
もこもこ	30代 (30歳~39歳)	雪見列車が好きで、米坂線に乗りました。電車は雪見に最も適した手段。外はどんなに雪深くても、暖かい車内からのんびり眺められます。米沢駅を出て、宇津峠の辺りから山深くなってきます。川が水色に凍っていたり、雪がスローモーションのように森の木の上に落ちて来たりする、そんな美しい雪景色が後ろへ流れ去るのを眺めていると、雪のなかへ自分の悩みも溶け出してしまうようでした。冬の米坂線に乗るのは2時間16分の映画を観るのと似ています。
保健委員	60代 (60歳~69歳)	時は平成元年の初夏。東北地方へ一緒に出張する上司が、なぜか行程は任せろと主張。その上、米沢での出張業務が終了した翌朝の八時前、否応なしに各駅停車の電車に乗せられました。途中、小国という駅で下車して乗り換え、お昼前に坂町という駅に到着。この間、上司は車窓からの風景を嬉々として眺め、「米坂線を制覇した」と満足げに何回も呟いていました。そうか、これが目的だったのか。私は、乗り鉄の情熱とそれが注がれる米坂線を変えたいと思っていました。
ミボリン	50代 (50歳~59歳)	私が子育て真っ最中の頃の出来事です 2人の子供が授かり上の子が小学1年生、下の子が保育園の年中さんの夏休みに坂町駅から私の実家の越後下関まで2人だけで電車に乗せてやりました 下関駅では祖父が嬉しそうに孫を迎えに来てくれていた事を思い出します その祖父も他界し寂しいですが娘達はいつまでも米坂線で実家に通った事を忘れないでしょう
ヒコさん	60代 (60歳~69歳)	中越地震の際、上越新幹線が、一部不通になり、バス対応でしのいでいた頃、関東エリア出張の際、何度か米坂線を利用して米沢駅に出て、山形新幹線で、東京向かった記憶を思い出す。出張は、大変でしたが、移動する時間が、ほっと出来る時間であり、電車では、次段取りも出来る貴重な時間でした。 米坂線は、のどかな電車で、景色を見てゆっくり出来たし、米沢牛弁当も美味しかった。 道路で言えば迂回路ですが、上越新幹線が、また災害で不通になったら今度は？
カンチェラーラ	40代 (40歳~49歳)	今から20数年前になりますが、某大学の工学部に進学し帰省の度に米坂線の電車に揺られていました。最寄り駅は坂町駅の為まさに米坂線を端から端までフルで満喫していました。 四季折々の景色が眩くて、今でも心象風景として心に残っています。山中を抜けて双方の平野に出たときの感覚も好きですが、赤芝峡の秋と冬の景色が特にオススメ！またのんびりと揺られてみたいなあ

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ミハル	20代 (20歳～29歳)	<p>私の米坂線の思い出は、「音」です。 新潟にある実家から10分ほど歩くと、米坂線の通る線路があります。私の家から電車が走る姿を見ることはできません。しかし、米坂線の音はよく聞こえました。</p> <p>夏は、鈴虫の音(ね)や田んぼにゲコゲコ鳴り響くカエルの声の中に、ガタンゴトン走っていく音が、かすかに聞こえます。冬の電車の音は、鮮明です。窓を締め切っている、シーンとした暗い夜の中、電車の音がはっきり聞こえてきます。いつも不思議に思いながら、私は耳を傾けていました。</p> <p>本数が少ないから、姿を目にすることが少なかった米坂線。けれども、音を聞いて「今日も走っているんだ」確認していたのが私の思い出です。</p>
大沼 豊	60代 (60歳～69歳)	<p>高校1年の冬休み、友人3人と1泊2日で蔵王スキー場に出かけました。朝、新発田駅に集合し、乗ったのは米坂線経由仙台行の急行あさひ。スキー客等で混みあう車内、スキー場、宿泊、初めて尽くしの旅でした。山形駅に着くと大勢のスキー客がいて右往左往、初めて聞く方言に困惑しながらスキー場にたどり着きました。山形へ直通の米坂線急行あさひで出かけたスキーの思い出が蘇ってきます。</p>
大沼 豊	60代 (60歳～69歳)	<p>12年前、子どもを連れて青春18切符を使い日帰りの南東北ツアーに出かけました。早朝新発田駅を出発し、磐越西線快速あがのに乗って会津若松へ、そして郡山、仙台、山形、米沢まで普通列車を乗り継ぎました。米沢からは快速べにばなで米坂線を通って新発田駅に戻りました。観光にも便利な米坂線が再開し、新潟から山形、そして仙台を結ぶ直通列車が走ることを期待しています。</p>
佐藤 度	20代 (20歳～29歳)	<p>仙台駅を午後に立ち、一路故郷村上へ。米沢辺りで秋の日は周囲を暗闇に包む。田んぼの中に巨人が立ち並ぶ、ちょっと幻想的で少し怖い。それが稲の稲架と知ったのは、故郷から仙台の学びの場に戻る復路のこと。故郷では見たことのなかった風景に、何か大きな人間の歴史と風土を感じさせられた。鉄道で自然も人もつながってるのだ、そんな感慨を強く感じた50年前のあの日。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
佐藤 度	10代未満（0歳～9歳）	湯沢という地名は日本各地にあるようですが、私にとっての湯沢は米坂線越後下関駅から行く湯沢温泉です。「ゆざわ」ではなく「ゆさわ」という優し響きがぴったりです。農家に育った私は、田植えや稲刈りが終わった時期には祖父母と決まって湯沢の湯治場に行きました。溪流ともいえる川の傍に立つ木造旅館で日がな一日温泉に入り、横になり、川で遊ぶという優雅な時間、でも三日もすれば「うちに帰る！」と言っては泣き、ついには田んぼ仕事で忙しかったであろう当時20代であった父が下関駅まで迎えに来てくれました。その父も90を超え、私も70。遠い遠い日の思い出です。
土屋忠彰	50代（50歳～59歳）	友人たちとトランプや話をしながら通っていました。話に夢中になり降車駅である西米沢駅についたことに気づくのが遅れ、慌てて乗車口に向かうも閉じてしまいました。次の南米沢駅で降りて学校に向かったことを思い出しました。
柏 美穂子	40代（40歳～49歳）	入学試験時、お母さんと乗ったのが初めてです。出来がイマイチで、帰りの電車の中でお母さんと、肩を落として帰った事を思い出します。無事進学が決まり2年間帰省の為に利用してました。本数が少なく不便だな～って思いましたが、のどかな風景が懐かしく思い浮かびます。雨の日にお父さんが駅で三度笠をかぶって迎えに来てくれて、未だに友達と思い出しては笑い話になってます。
たぼちゃん	10代（10歳～19歳）	雪がちらほら舞いだした12月。仙台での大学進学の手続きの帰り、私と母はべにばな号に乗っていた。途中、網棚に乗せていたコートがなくなっていることに気づいた。探し出した私に乗客も気づき始め、騒がしくなった頃、一人のおばさんが膨れ上がった鞆を持ち車両を出て行った。私はとっさに追いかけた。鞆の中を確認させて貰うと、そこに私のコートがあった。その後、車掌さんに事情を伝え、その人は次の駅で警察官に連れて行かれた。コートがあった喜びに反しおばさんの姿がとても哀しかった。
しんていー	30代（30歳～39歳）	「海と言えば瀬波」。そう思って育ってきた置賜人は私だけでは無いはずですが。米沢市で生まれ育った私にとって、米坂線は憧れの新潟の海に遊びに行ける大切な手段でした。特に高校時代は、暑い夏の日友人と米坂線に乗り、海を求めて坂町まで行くことが大好きでした。電車から眺める飯豊や小国の山々や川、何より「山形と新潟の県境を越える瞬間」が堪らなく大好きです。豪雨災害により、電車で新潟に行くことは叶いませんが、いつの日か、米坂線が復旧し、電車内から素晴らしい風景を眺める日を心待ちにしています。米坂線の復活を心から願っております。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
マーちゃん	80代 (80歳～89歳)	<p>昭和三十八年一月二十四日、私は小国町に日帰り出張のため、米沢発の米坂線に乗車した。午前9時頃手ノ子駅に着いた。ここで上りの急行とすれ違はずだったが、大雪のため来なかった。救援列車が来るなど情報も錯綜し、結局一晩車中泊となった。SLだったので客車の暖房は絶えなかったし食事はおにぎりを提供してくれた。翌朝、同じ乗客で長井在住の方が、今泉まで歩いて帰るというので随行を願いし、三人で雪道を歩いた。今泉駅と米沢駅間は列車が動いており、午後三時頃ようやく米沢駅に帰った。除雪が終わって列車が小国駅に着いたのは二月四日、この間小国町は雪で完全に孤立し、後に38豪雪と名付けられた。</p>
Chiezo	30代 (30歳～39歳)	<p>JR米坂線「手ノ子駅」は私にとって「夏休みの玄関」です。 東京の世田谷に生まれ育っていた私にとって、毎年の夏休みの楽しみが 祖父母の家に行くこと。 子供の時は両親も一緒でしたが、小学2年生にもなると 東京駅から電車を乗り継いでの長旅でした。 手ノ子駅はとても小さくて、人がいなくて、本当にポツンと可愛い駅。 駅の周りに緑が多くて都内にはない特別な駅。 駅に引き戸がついていて、ガラガラがらと開ける。 長い電車旅での私の終着駅が「手ノ子駅」。 祖父母が必ず駅ホームで待っていてくれた駅。 今はとても綺麗になった駅だけれど、私の記憶はあの時のまま。 駅を宝物にできるなら間違いなく手ノ子駅です。</p>
もゆる	50代 (50歳～59歳)	<p>高校生の時、通院で伊佐領から今泉経由で赤湯まで行こうとした時のこと。車内で切符を購入しようとしたら、財布を伊佐領に置き忘れた事に気がきました。困っていたら、車掌さんから思わぬ提案。「今泉までまず行って、ちょうど下り列車に乗れるから、伊佐領で財布を探しておいで。快速だけど、停めてあげるから大丈夫。待っててあげるから見つけたら小国までそのまま乗ってくれる？」 下り列車の車掌さんに引き継いで下さり、「臨時停車しまーす」と車内アナウンス。財布は待合室にあって、私が戻って来るまで待っててくれた米坂線。あの時の車掌さんに改めてお礼をお伝えしたいです。35年前の出来事、決して忘れられない思い出です。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
おひげ	30代（30歳～39歳）	<p>春。 ださいピアス、切られたスカート。 大人になったかのような錯覚と、えも言われぬ高揚感に溢れている。 ベタベタのワックスと、ピカピカのローファー。</p> <p>夏。 アルカイックな扇風機が生ぬるい風を送っている。 運動部の喧騒と、汗と、シーブリーズの匂い。</p> <p>あいつが辞めた秋。 谿紅葉なんて誰も見ちゃいない。 音漏れのイヤホンと、緩いベージュのカーディガン。</p> <p>冬。 冷え切った無人駅。 薄いポケットに手を突っ込む。 頼りないあご髭と、あの子と同じバーバリー。</p> <p>そしてまた、春――</p> <p>恋と退屈。</p> <p>20年前の話。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
おひげ	30代 (30歳~39歳)	<p>戦後まもなく祖母はうちにやってきましたらしい。 自由恋愛ではなく、親に決められた相手が祖父だった。 「こんな家、すぐ逃げ出そうと思っていたんだよ。」 「ただね、」と祖母は言う。 ある日、祖父と電車に乗ってS市のお祭りに出かけ、そこで綺麗な簪を買ってもらったんだって。</p> <p>「それでこの人はいい人かなって思ったの。」</p> <p>ばあちゃん… そんなかわいい話を聞かされたらこっちは困っちゃうよ。</p> <p>ばあちゃん、 いつの日か俺に話してくれたこと、 ばあちゃんはもう忘れちゃったかもしれないけど、 俺はずっと覚えているからね。</p>
たかはし	30代 (30歳~39歳)	<p>通学で使っていた南米沢駅は無人駅で、電光掲示板もありませんでした。 電車がなかなか来なくても、なぜ遅れているのかわかりません。 そんな時には、ホームにある受話器をとって「今泉駅お願いします」と話しかけると、駅員さんと話すことができました。 「20分遅延だそうでーす！」 駅員さんから聞いたことを、同級生にも、話したことのない先輩にも、おじいちゃんおばあちゃんにも、電車を待っているみんなに聞こえるように大きな声で言うと、 「はい」「ありがとー」 と返事を貰い、少し嬉しい気持ちで電車を待ったものでした。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ずんだちゃん	40代（40歳～49歳）	<p>毎日、中郡駅から米沢の高校に通っていた。 終点は米沢駅。 帰りは坂町駅行きに乗る。 坂町駅ってどこだろう、意外と近いのかな、ただそう思っていた。 高校2年生の夏。わたしは小学生の時から文通している女の子と兵庫県と山形県の間、初めて長野で会うことになった。 社会の地図帳を広げる。 どこで行ける？米坂線でいける？ 行ってみたかったもうひとつの終点駅。 きまり。米坂線でいく。 学校帰り、米沢駅のみどりの窓口で、駅員さんに相談しながら長野までの切符を買った。 わたしは地図帳を手にとって、朝早く中郡駅から米坂線に乗った。 緊張しながらいつもと反対方向の坂間行きに乗る、初めての一人旅。</p>
玉谷 貴子	40代（40歳～49歳）	<p>大学時代、盛岡から新潟の実家に帰る時に乗っていました。夏休みは新緑が車窓からのぞき、扇風機が回る車内。暑いけれども清々しい、ゆったりとした時間を過ごせたのが良い思い出です。</p>
はなもも	60代（60歳～69歳）	<p>大学3年の夏、友達5人と、今泉駅から坂町まで列車に乗り、瀬波に泊まったの海水浴をしました。 その時、男子高校生たちと知り合いになり、一緒に海で泳いだり遊んだりしました。 別れるとき、私たちが大学生であると伝えたら、とてもがっかりされました。 女子高校生と思っていたようです。ごめんなさいね… 帰りはもちろん米坂線に乗ってきました。 あの高校生たちも、もうすっかりおじさんでしょうね。</p>
こうめ	60代（60歳～69歳）	<p>かなり昔ですが、秋、米坂線沿いの紅葉がきれいというのを知り、夫と今泉駅から坂町まで列車に乗りました。 話通りに車窓からの眺めが素晴らしかったことを思い出しました。 坂町駅では、帰りの列車まで時間がなく、駅前の食堂でラーメンを食べて、すぐ帰ってくる とんぼがえりの鉄旅でした。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
居眠り親父	50代（50歳～59歳）	昭和60年頃の話。新潟県内の大学生だった私は、正月休みで帰省するため、猛烈な吹雪を窓越しに眺めながら「急行べにばな」で今泉駅に向かっていました。夜になりいつの間にか寝落ちした私は、吹雪のため小国駅で運行ストップする旨のアナウンスで目を覚ました。のろのろ運転の車中どうしたものかと思案し、同じ道中の人たちと相談した。家人の車で送ってくれるという親切な人もいたが、小国駅前の旅館にギリギリの所持金で泊まることにした。運よく確保できた宿から電話を借り家族に連絡すると、晩酌前の叔父が車で迎えに来てくれることになった。すこし慌てた夜だった。
居眠り親父	50代（50歳～59歳）	40年以上前の高校生の頃、今泉～西米沢駅間を通学利用していました。部活で疲れて夕食を食べると倒れこむ毎日、なけなしの勉強時間を確保できるのが米坂線の車内でした。他校の生徒がからかい半分で絡んでくることがしばしば。ある日私が柔道部の怖い先輩の知り合いと分かると、態度が急変したのが滑稽でした。また、後ろのボックス席から手が伸びトントンと私の肩をたたく。振り返る間もなく手紙を渡され、読むと他校女子からの告白文。恥ずかしくて相手の顔を見ることもなく突き返してしまいました。もったいない……。米坂線の車両を見かけると、「あおはる」の淡い思い出が蘇ります。
イタピー	20代（20歳～29歳）	1970年代冬季、米沢から長井まで列車通勤しました。今泉が長井線との乗換駅です。米坂線の列車は9600型のS Lが引く客車でした。そのS Lのひとつに59634号機がありました。帰宅列車のS Lが「ごくろうさんよ」……癒されました。 今泉駅では長井線と米坂線の上り下り列車4本が勢ぞろいし壮観です。飯豊小国方面の豪雪で上りが遅れる事もありましたが、雪との戦いを偲ばせる雪まみれのS Lが入線してくる姿は実に頼もしく見えました。
クロシュウ	10代（10歳～19歳）	米坂線は山形と新潟を結ぶ要となる路線です。私は一人旅が好きで、米坂線を使い、新潟市に遊びに行きたいです！どうか復旧を！
りよっさん	40代（40歳～49歳）	今から6年前、デジカメを新しく買い替えたので、古いデジカメをそれぞれ6歳の娘と4歳の息子にあげたのですが、とても気に入った様子でいつも持ち歩いていました。ある時、飯豊町の源流の森で遊んだ帰りに食堂でご飯を食べていると、歩いてすぐの所に駅があると聞き、行ってみました。手ノ子駅と書かれた駅舎で時刻表を見ると間もなく電車がくる様子。子供たちがカメラを取り出しホームで待ち構えていると遠くから電車がやってきました。「キター！」と興奮しながら夢中で撮っていると、チビッコ撮り鉄の熱烈な歓迎をうけて運転士さんもニコニコ笑顔で応えてくれました。ほんのわずかな停車時間でしたが、ほのぼのとした温かい時間でした。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ひまわり	60代（60歳～69歳）	<p>米坂線の思い出は蒸気機関車です。 遠い遠い昔の子どものころ、地区の子供会の夏休みの行事が泊りがけの海水浴でした。 新潟の海の行きと帰りはもちろん米坂線。そのころの列車は蒸気機関車。 トンネルに入ると煙とにおいがひどくて、あわてて窓を閉めました。 クーラーなんてない列車の中、暑くて大変でした。 海で泳いだ楽しい思い出とともに、蒸気機関車のおいが残っています。</p>
佐藤 正彦	60代（60歳～69歳）	<p>私が小学生で当時、米坂線にSLが走っていた頃よく萩生駅に行き貨物の積み下ろしや貨物列車の入換作業を見ていました。特に米の積み込みがあった秋頃は、萩生駅には十数人の日通職員がいて貨物列車に積み込んでいました。私が毎日行くので、一人の作業員が「これに乗って行くと東京とか大阪に行けるぞ」と言われ憧れていました。 勿論、いつの間にか萩生駅での貨物の積み込みは無くなり今は、寂しい限りです。 是非、米坂線完全復活を望みます。</p>
佐藤 正彦	60代（60歳～69歳）	<p>やはり、夏休みの臨時列車「かっぱ」でしょう。地区のみんなとわいわいがやがやと、SL牽引の列車に乗っていくつものトンネルを越えて、一年に一度だけの海水浴を楽しんだものです。鼻の中を真っ黒にしながらでしたが、帰りの列車中ではとても眠く全身運動後の疲れは、一年に一度の当時のストレス解消といった思い出があります。 (その2)</p>
白ちゃん	60代（60歳～69歳）	<p>高校生の時、羽前小松駅から西米沢駅まで通学で乗ってしました。「汽車通」です。四季折々の風景が思い出されます。特に稲刈りの時期が好きでした。冬になると、吹雪で駅に行っても汽車が来ず、ずっと駅で待ったあげく、学校を休まざるをえなかったことも思い出です。新潟方面に行く時は小国の山あいの景色もきれいでした。早く復旧してほしいものです。</p>
めい	50代（50歳～59歳）	<p>今から33年前、学生時代を米沢で過ごした私は、仲良し3人で米坂線に乗って新潟へ。当時はスマホなんてなく、列車時刻は分厚い「JR時刻表」で念入りに調べ「るぶ」片手にアナログな旅を大いに楽しみました。鮮明に記憶に残っているのは車窓からの景色。どこまでも続く田んぼと山並み、赤い橋、列車から見下ろす川の流れの美しさ。若かった私たちは全てに感動し、長閑な風景とガタンゴトンという列車の音と揺れに身を任せ「いつになったら米沢に着くんだろうね？ 遠いね?!」と笑い転げながら帰ってきた楽しいひと時。列車時刻も観光スポットも簡単に調べられるこの時代、仕事をリタイアしたら今一度アナログな旅をしたいなあと思います。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
なっちゃん	30代 (30歳~39歳)	米坂線に乗ったのは丁度季節は暑さの和らいできた秋のことでした。坂町駅を出たあとの黄金に輝く稲穂がとても美しく、日本に生まれたことを誇りに思う景色でした。その後も川や橋など風光明媚な風景を楽しむことができました。電車から降りた後は、パンではなく、ご飯を食べたいなと思いました。米坂線には都会に住む人が忘れてしまった景色があると感じています。早期復旧を願うと共に、また是非乗車させて頂きたいです。
まゆぼん	50代 (50歳~59歳)	2019年秋、紅葉シーズンに観光客気取りでビデオカメラを片手に越後下関から羽前橋まで『快速べにばな』に乗車しました。普段、車から見る景色とは違い木々が車窓から近くキラキラしていて、鉄橋からは真下に川が見え、鹿がいたのが印象的です。手ノ子駅で急に運転手が車外に下りたので眺めていると、列車を見に来た子供に何かをプレゼントしていました。微笑ましい光景に、我が子も小さい時に電車を見るために駅に行ったのを思い出しました。
saruiko	40代 (40歳~49歳)	高校3年間は、小国駅から米沢まで米坂線で、通学していました。高校1年のとき大雪で、汽車が進めなくなり、汽車の中で一晩過ごしました。全国ニュースになるほどの大雪で、親たちは心配してたと思いますが、私は通学仲間と外の吹雪には、お構いなしに、わあわあ言って騒いでいた記憶があります。地元でUターンする前までは、帰省のときは、米坂線に必ず乗って、当時を懐かしんでいました。たくさんの思い出がある米坂線は、私の青春の1ページになっています。
R Y A	40代 (40歳~49歳)	子どもの頃には遠足や通学で利用していた(米)坂線。大人になって家族が増えてからは、非日常体験ができるエンターテインメントとして利用しています。我が家の子どもたちは、列車デビューに坂線を利用しました。奥羽本線という選択肢もあるのですが、(失礼ながら)坂線のほうが空いているため、多少子どもが騒いでもヒヤヒヤしなくて済むので…。普段、車を利用している子どもたちには列車での移動は本当に新鮮で、目をキラキラさせて窓にくっつくようにして外を眺めています。自分の子どもの頃も同じだったのかな、と思うとともに、子どもたちやその次の世代も同じように思い出を作っていけたらと思います。また坂線に乗りますね。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
鈴木 龍雄	40代 (40歳～49歳)	<p>2004年10月、東京から自宅のある新潟県村上市に向かい新幹線に乗車中、中越地震が発生した。先行していた新幹線が脱線し、大学生生活を過ごした米沢経由で帰宅することにした。米沢駅にたどり着き、駅員に米坂線の状況を確認したところ、60代と思しき和服のご婦人から声を掛けられた。</p> <p>「佐渡に行きたいんですけど」</p> <p>聞けば華道の先生で、明日佐渡で大勢のお弟子さんが待っているとのこと。翌朝、宿泊先から同行し、米坂線の始発に乗車した。徐行した列車は、紅葉の中、静寂と世間話を織りなしながら坂町駅に到着した。彼女が新潟行きの特急に乗り換えるのを見届け帰宅した。</p> <p>一期一会と災害時の米坂線の大切さを身をもって感じた。</p>
さこいち	20代 (20歳～29歳)	<p>高校三年生の冬、米坂線は私に残された進学のための頼みの綱だった。秋に受けた地元国立大の推薦入試から年明けのセンター試験までを散々な結果に終え、いよいよ進学が危ぶまれた時、進路指導の先生に米短の受験を提案され、米沢への進学という選択肢が生まれた。二月、堆く積もる雪の壁を越えて受験した一般入試に合格し、寮へ住める安心感も手伝い、米坂線に揺られて二時間と少しの距離にある米短への進学を両親から許された。入寮日に一人で米沢駅に降り立った時のソワソワとワクワクの入り交じった気持ちは、あれから十年近く経った今でも忘れられないし、きっとこれから先どれだけ歳を重ねてもふとした瞬間に思い出されるのだと思う。</p>
さこいち	20代 (20歳～29歳)	<p>改札から米坂線ホームへの距離は、なぜこんなにも遠いのか。米沢に住んでいた学生時代、何度こう思ったことだろう。米沢駅から実家のある新潟に帰省する時、発車時刻ギリギリで改札を通り、息を切らしながら四・五番線ホームに停まった電車で駆け込んだ二年間は、当時は恨めしかったが、今となっては懐かしい良い思い出だ。東京へ移り住んだ今、米沢へ行く時はたいてい新幹線だし、ごくたまに実家から米沢へ足を運ぶ時も、件の豪雨以来は車で行く。あの奥まった所にあるホームに降り立つことは、もしかしたらもう無いのだろうかと思うと、心に少しだけすきま風が吹く気がする。</p>
六花の錦	50代 (50歳～59歳)	<p>子どもの頃母と鉄道で山形一周して米坂線に乗りました。赤湯から米坂線で坂町へ。羽越線と陸羽西線、奥羽本線で戻りました。新潟大に進学して新たな生活への旅立ちも米坂線で。在学中に山形新幹線開通で赤湯から新潟直通の列車がなくなり米坂線を使う機会も減りましたが何かあったら米坂線でした。小国の学校で講師の時豪雪で車のワイパーが壊れて運転できなくなりました。車を小国の工場に置いて米坂線で赤湯に帰りました。今は鉄道で山形一周もできず何かの際も米坂線で帰れません。大切な思い出の路線で新潟や小国への大切な足です。使いやすくなればもっと使うはずです。早期の復活を願っております。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
六花の錦	50代 (50歳～59歳)	赤湯と新潟の行き来で米坂線を利用する際、今は直通がなく本数もなく乗り換えも合わず困っています。それでも先日代行バスでも新潟と往復しましたが帰りはバスが遅延して長井線が今泉で待ってたので何とか。その日のバスは関川村への外国人観光客もいっぱい乗っていました。インバウンド客を山形に引き込むにも鉄道復旧は大事。国立公園へのリゾートホテル誘致も出ましたが観光地振興策やPRとも絡めて新潟から米坂線で仙台へのルートを新幹線と合わせて周遊観光に使いたい。太平洋と日本海を結ぶ物流や通勤通学にも。米坂線は地元のほか国県JRにもメリットがある重要路線であることを確認して協力しての復活をお願いしたいと思います。
imagine	40代 (40歳～49歳)	雪が降りしきる冬のことでした。毎朝、中郡駅から米沢方面の列車に乗る先輩。いつも決まって片手には単語帳を抱えていました。大学受験を目前に控え、私には目もくれず、満員電車の中、黙々と勉強に打ち込む彼は近くにいるのに遠い存在でしたが、そんな彼の姿に私は心惹かれていました。3月になると、彼の手にあの単語帳はありませんでしたが、彼の顔は少し柔らかくなっていました。厳しい置賜の冬を超え、春の訪れと別れを感じた甘酸っぱい青春時代でした。米坂線よ、これからもたくさんの思い出とともに未来へ駆け抜けて欲しい。
R	20代 (20歳～29歳)	毎週大学と地元を繋いだ米坂線の思い出です。米沢の大学に入学して一人暮らしが始まりました。地元の新潟が好きで毎週末、実家へ帰りバイトをしたり遊んでいました。米坂線は坂町と米沢を乗り換えなしで繋ぐ電車で私にとって大切な米坂線でした。毎週金曜日に新潟へ帰って月曜日の朝に米沢へ楽しみや寂しさを感じながら乗車していました。2時間自然豊かな線路を走るステキな米坂線でした。また坂町と米沢を電車で繋いであの景色をみたいです。
きょん	50代 (50歳～59歳)	今から10年程前7月 午後からの大雨で萩生駅に停車したままの列車。娘と一緒に列車をのぞいてみると運転手さんと車掌さんがおられたので『家に来て避難しませんか』と誘いましたが 列車から離れられないとの事。夜ご飯も食べてないと思いコンビニからおにぎりを購入してお渡ししました。一晩降り続く雨。翌朝 雨は小降りに。おにぎりを作り再び列車へ行くと運転手さんと車掌さんは疲れて座席で休んでおられました。お昼前には列車は無事に動き出し一安心。あの時の運転手さんと車掌さんは 今もお元気かな～
エルサ	20代 (20歳～29歳)	自宅の前が駅なので小さい頃から列車に手を振ると 乗っているお客様や運転手さんが手を振り返してくれるのがすごく嬉しかった。幼稚園の頃 列車でダリア園の遠足もあったな～ なので、すっかり列車が好きになり母と妹と米沢へ。米沢駅前にある音羽屋さんが『千と千尋の神隠しの神隠し』に出てくる湯婆婆の湯屋にそっくりでそれが見たくて何度も出かけました。帰りは列車内でお昼を食べながら 車窓を見るのが好きでした。 また、乗りたいな～！！

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
きょん	50代 (50歳～59歳)	<p>駅前に理容室を開業して80余年。祖父母が開業した頃はまだ水道がひかれておらず 祖母は貨物列車が水を運んでくると天秤棒を担いで水を運んだそうです。</p> <p>母が嫁に来たのも列車に揺られて。私が産まれて里帰りするときも列車。家族で海に行くときは 『カップ号』新潟から海産物を売りに 荷物を背負い行商の方も利用していた。</p> <p>高校は汽車通 車窓からの風で髪が揺れていた(笑)。娘たちは手を振り それに応えてくれる車掌さん♥娘たちの通学も汽車通。東日本大震災時 日本海側からの物質輸送に大活躍。鉄道と共にある我が家の歴史。またトンネルをくぐるワクワク感を味わいたい。</p>
ゆっきー	20代 (20歳～29歳)	<p>高校は汽車通。ちょっぴり大人の気分。</p> <p>そんな高校の夏休みの部活へ行こうと駅へむかうと なんと！YBCのピヨ卵取材に遭遇。マイクをむけられドキドキ♥</p> <p>その後 アナウンサーさんに見おくらせて頂きました</p> <p>ああー緊張したっけな</p>
佐藤 正彦	60代 (60歳～69歳)	<p>いつの日か、私はふる里を離れていました。そして改めて米坂線のみてみると、そこには新潟と仙台を結ぶ堂々たる急行「あさひ」号(当時2往復)が運転されており日本海と太平洋を最短で結ぶ重要路線として君臨してました。急行「あさひ」号はグリーン車を連結し飯豊町には「羽前椿」のみの停車で今、思えば彷彿していました。(確か最大DC8両編成と記憶してます)</p> <p>いつの間にか、米坂線は山形県内で最も赤字路線と揶揄されてから悲しい日々が続いており残念に思ってます。(その3)</p>
ヨーゼフ	50代 (50歳～59歳)	<p>子供の頃、夏休みには越後下関にある親戚の家に必ず行きました。それこそ半世紀前になりますが家から外を見ると当時は今より頻りに列車が通っていた気がします。急行や貨物列車、普通列車も今より長かった記憶があります。</p> <p>この汽車はどこまで行くのかと聞くと米沢や山形、仙台に行く汽車もあると教えてくれました。いつか山形という遠いところに行ってみたいなあと子供心に思ったものでした。</p> <p>高校の卒業アルバムのおもて表紙に写真を載せてもらったくらい米坂線が好きです。</p>
ヨーゼフ	50代 (50歳～59歳)	<p>子供の頃、夏休みに越後下関沿線にある親戚の家に行くたび、いつか終点の山形まで行ってみたいと思っていました。その夢がかなったのが山大進学でした。関東の親元を離れ、親戚の家から山形までわずか2時間、案外近いので拍子抜けしました。車の免許を取るまでの間、盆暮れ正月に親戚宅に帰省するとき必ず使いました。車内は同級生たちが沢山いて、車窓の絶景を見ながら話が弾み、能登半島まで1日かかりで延々帰っていった友もいました。帰省のUターン時は便利な汽車があって山形で10時半から始まる学期最初の授業に8時発の列車に乗って間に合った記憶があります。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
おこ	40代 (40歳～49歳)	<p>私は30年ほど前に、新潟県関川村から仙台市の大学に進学しました。米坂線は仙台市までの移動手段の一部であり、全行程4時間の旅でした。一人暮らしの学生生活から帰省する際には、米沢駅で最後の乗り換えが終わるとホッとして、家族に会える喜びがじわじわとわいて来ました。印象に残っているエピソードがあります。いつものとおり米坂線で帰省する途中、関川村にある荒川峡は紅葉が見頃になっていました。一面黄色と赤色の世界はとても美しく、同じ車両のお客さんがもっと景色を見ようと席を移動し、感嘆の声を上げていました。米坂線だからこそその景色で、故郷を誇らしく感じたのを今でも覚えています。</p>
るう	50代 (50歳～59歳)	<p>私の旅好きのルーツは米坂線にあると言っても過言ではない。祖父、父ともに国鉄（現在のJR）職員で、それも米坂線沿線の駅勤務が長かったこともあり、我が家はいつも米坂線と共にあった。小さい頃から、米坂線に乗って、父を勤務先まで迎えに行くのが楽しみで仕方がなかった。沼沢、伊佐領、松岡、小国・・・</p> <p>車窓から見える深い山々の景色と、鉄橋を渡るときの独特な金属音</p> <p>トンネルに入るといきなり窓に自分の姿が映ってびっくりしたり</p> <p>車両と車両の連結のところが跨ぐのが怖くてよく躊躇していたっけ</p> <p>初めて一人で米坂線に乗って、父を迎えに行った時のワクワク感</p> <p>いつか、孫ができたら、手を引いて、また米坂線で旅に出たい。</p>
ボクシー	60代 (60歳～69歳)	<p>小学生の時に親戚や買い物に行くのに母親は車を持っていないために、当時はSLが煙を出しながら乗っていきました。ガタンゴトンに揺られに感動し何度も乗ってみたい気持ちになり、その後も乗ったことを思い出します。SLから気動車に代わり米沢駅や坂町駅方面から普通列車・急行列車・臨時列車が2～6両の電車が実家の目の前を走って来る線路に行くと手を振って運転手さんが警笛を鳴らしてくれる人もいました。母親は10年前に他界しましたが、天国で「米坂線に電車は来ないの？走って」と言っているようですので、早期復旧後は母親の写真と一緒に乗りたいと思います。</p>
あめ	40代 (40歳～49歳)	<p>高校時代の娘は財布は持たず、携帯と定期券だけ持ち学校に行っていました。夏休みの部活帰り、疲れて電車の中で眠ってしまい、気づいたら最寄り駅を通過した後でした。山の中を走る米坂線は携帯も通じず、かなり焦ったようです。車掌さんに寝過ごしてしまったこと、お金がないことを伝えると『この辺の駅は無人駅で寂しいとこだから、小国駅までそのまま乗ってそこで折り返しの電車に乗りなさい』と言われ『寝過ごした』と書かれたメモを渡され、折り返しの電車に乗り、お金を払わず最寄り駅で降りた、とすることがありました。座り心地の良さ、眠りを誘う揺れと音、車掌さんのあたたかさに触れた素敵な時間を娘は過ごしたのだなと思いました。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ソラヒト	40代 (40歳~49歳)	米坂線を利用したのは、上越新幹線からE2系新幹線が引退すると聞いたときでした。坂町駅のホームにいと遠くから新しい気動車が1両でトコトコ走ってきて、最初は「え! 1両? 混まない?」と思っていましたが、乗り込むとピッタリくらいでした。小さな1両の気動車でしたが、運転士さんやお客さんみんなが和やかに乗り合わせていて、終点の米沢まで東京ではあまり聞かなくなった「ガタンゴトン」というレール音を聞きながらのんびりと過ごせました。
やまぶきいろ	40代 (40歳~49歳)	小学一年生だった双子の私と姉の初めての夏休み。祖母がいる小国町まで2人で米坂線に乗って会いに行きました。いつもは母と乗りますが、今回は2人だけ。ドキドキと緊張でずっと2人で手を握りながら座っていました。その姿を見た駅員さん、乗り合わせた高校生やおばさん達が、偉いねと声をかけてくれたので、いつの間にか緊張がとけ、貰ったオヤツを食べながら少し誇らしげに座りながら景色を眺めていたのを今でも覚えています。
まっちゃん	60代 (60歳~69歳)	汽車の写真を撮りに行った思い出約50年程前、友人と二人で、夜行列車に乗って、米坂線に行きました。まだ暗い早朝に、坂町駅に着き、待合室で一番列車を待ちました。一番列車には、大きな風呂敷包みを背負った行商の方と仕事に行かれる方と私たちだけでしたが、座席は、ほぼ埋まっていました。乗客は、途中の駅で、数人ずつ降りて行きました。羽前沼沢駅に着く頃には、車内は静かになっていました。しかし、我々は、すれ違い駅などで、写真を撮ったり、話をしたり、楽しく過ごしました。山に囲まれた景色の良い場所で、汽車が来るのをいまかいまかと待ち、遠くから汽笛が聞こえてきた時、あの時の気持ちの高ぶりを懐かしく思います。
むさちゃん	70代 (70歳~79歳)	高校生のSLファンだった1971年冬、上野発夜行急行「佐渡」で新津へ。乗換えた羽越線の古い木造客車は乗客はゼロ。白熱電球の車内は冷気が漂い一人旅の心細さを味わう。しかし坂町で乗換えた米坂線は行商のおバちゃん達で熱気ムンムン。カメラをぶら下げた若造は何とも場違い、でもそんな若造におばちゃん達は優しくった。夜行で来たと告げると「腹減ったべ」と売り物?のお餅やおにぎりが差し出されお腹も気分も暖かく。こんな山形の人と米坂線が大好きです。復活に向けてエールを送ります。
エルム	20代 (20歳~29歳)	米坂線に乗ったのは、二千二十年のダイヤ改正直前、キハ110形が新型車両に置き換わる直前だった。米沢を夕方に出る便で坂町へ向かった。途中の小国で行き違い待ちで長時間停車をしていた。駅舎には撮影スポットがあり、撮影した写真をSNSに投稿すると物品がもらえる催しをしていて、地元の木材で作ったストラップと、米坂線の写真葉書を貰った。小国からは旅の人と話すことがあり、レンタカーが故障したから急遽列車に乗ることにしたとのことで、暫時歓談した。旅人と駅員さんの心に触れられた温かい思い出だ。

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
ウイラード	40代（40歳～49歳）	<p>仙台の大学の通信生をしていた頃、フラワー長井線から今泉駅で乗り換え、ベにばな号で新潟へ戻ってました。そのベにばなの車内で米沢の高校生が小国駅までテキストを読んだり、友達と話している姿を見てました。その姿を見て、こちらも奮起する気持ちももらえました。米坂線のその区間は私にとってモチベーションを高めてくれたら、癒してくれる空間でした。</p>
互尊	50代（50歳～59歳）	<p>平成2年春、私は駅のプラットフォームに立っていました。今は亡き家族が見守る中、決意を胸に握手し別れを惜しんでいました。頬を伝う涙をトンネルの暗闇で洗い流しながら上京。35年の月日が光陰の如くに過ぎました。今でもあの駅構内と駅外を隔てる錆びた鉄柵を見ると、家族一同が流した涙を思い出し、初心に帰る事ができるのです。</p>
ハイク	60代（60歳～69歳）	<p>社会人初任地は福島県喜多方市でしたが、職場の先輩の誘いで飯豊山登頂の機会があり、福島側から登り始め新潟～山形と縦走り、小国町に下る行程を辿りました。山行中、山並みや花畑、雪渓の涼を堪能できた迄は良かったのですが、下山時に両膝が大笑いしてしまい、半ベソ状態で歩いたのが今でも忘れられません。下山後、小国駅から私達喜多方組は新潟方面に、福島市からの参加者は米沢方面へと二手に分かれて乗車しましたが、米坂線は長閑な景色が広がるエリアを走り抜け、米沢と新潟とを結ぶ貴重な路線との印象を持ちました。新潟駅到着後、寿司に舌鼓を打ってから喜多方へ帰ったのが40年近く前の思い出です</p>
村山 敬介	60代（60歳～69歳）	<p>私は令和4年度まで米坂線沿線にある関川中学校の校長をしておりました。ある朝のこと、校門前の跨線橋で数名の女子生徒が立ち止まって線路を覗いていました。心配になって何かあったのかと尋ねると「電車が来るので、運転士さんに手を振るんです！」と可愛い答えが返ってきました。下関駅を出発して片貝駅へ向かう電車に向かって手を振ると、運転士さんが手を振りかえしてくれるというのです。彼女たちは、互いに名前も知らない者同士が交わすちょっとした「朝のあいさつ」を毎日心から楽しみにしているのです。何とも無邪気で微笑ましいその光景は、今も忘れられません。私たちの心の中の米坂線は温かい思い出としていつまでも残っています。</p>
御成山	60代（60歳～69歳）	<p>東京での長い生活を終え米沢に帰って来た。日中は気づかないが、夜は遠くから列車の走行音がカタンカタンと聴こえてくる。夜の列車の音は切ない。早世した夫と30年前、錦秋の頃に坂町から西米沢へ向かった。車窓に広がる赤芝罅や延々と続く田圃の景色に都会育ちの夫は興味津々。羽前小松辺りでは、遠くに母の実家だった古家の跡が見えた。もう会えない祖父母や伯父の笑顔が蘇る。「命を終えた人間はどこに行くんだろう？」と呟く私に「どこかは判らないけど、でもまたいつか会えるよ」と夫は微笑んでいた。黄金のススキが一面に広がる西駅に着いた時、西国もこんな風景だろうか？とふと思ったのはなぜだったのか。あどけない米坂線の話である。</p>

「わたしたちの米坂線」思い出エピソード応募作品

ニックネーム	年代	米坂線にまつわるあなたの思い出エピソード
いち	40代 (40歳~49歳)	<p>今から25年前、高校を卒業し親元を離れ新潟で一人暮らしをはじめた学生時代。山形には電車で帰省していました。新潟駅を出発しJR白新線、米坂線、奥羽本線を乗り継ぎ村山駅まで5時間以上の旅。大人になった今は長い時間に思うけど、当時はのんびりと風景を眺め読書をし、時折ウトウトしながら電車で揺られて故郷に帰って来ることが楽しみでした。素敵な風景が1番の思い出…と思いきや、電車の方に向かいちょうどキジを撃っていた丸見えお爺さんの姿が1番心に残っています。お爺さんもさぞかし驚いたでしょう！そんな思い出はさておき、米坂線は故郷へと連れて行ってくれる心安まる電車でした。次があれば夫と子供と一緒に乗りたいです。</p>
高橋 敏昭	50代 (50歳~59歳)	<p>仙台から新潟へ3年ほど単身赴任。一度、気まぐれに鉄道で帰ろうと米坂線経由で仙台へ。列車によっては、高速バスと変わらないことも。昼間に乗れば、四季の風景を楽しめる。意外な好みは、坂町発18:00発の米沢行き。高校生と一緒に出発しても越後下関から先は米沢方面への通し乗客だけ。ボックス席で一人、仕事や家族の事など、真っ暗の車窓に自分の姿をちら見しながら考える。ガッタン、ゴットンと揺られながら、時には人生を振り返ったり…。ゆっくり過ごせる時間と車窓を味わえる米坂線がやみつきとなり、結局、月に1-2回、新潟と仙台をいったりきたりしました。振り返ると、単身赴任の一番の思い出が米坂線の列車かもしれませぬ。</p>
ゆーていーん	20代 (20歳~29歳)	<p>仙台市の大学に通う私は、新潟市へ帰省する際、よく米坂線を使う。米坂線は、そんな部外者の私にとって、なんとなく地元の生活を直に感じられるような温かい印象がある。特に、越後下関駅で簡易委託の駅員さんが学生の方々を出迎える光景は、鮮明に覚えている。しかし、米坂線は豪雨被害で不通となった。随所で見られるブルーシートや、無人となった越後下関駅の姿は、代行バスで通るたびに寂しさを覚える。変わらず出迎えに専心する小国駅クマ駅長「おぐたん」だけが、心の拠り所である。私にとって、再び鉄道の米坂線に乗り地元の生活を直に感じることは、所持するきっぷから「学割」の文字が消えた後でも、夢であり続けるだろう。</p>